趣旨説明

Purpose description for the symposium

実行委員長：金沢大学資料館長　　奥　野　正　幸
Executive Committee：Director of Kanazawa University Museum　OKUNO, Masayuki

ただ今から大学博物館等協議会シンポジウムを「ヴァーチャル・ミュージアムの現状と目指すもの」と題して開催させていただきます。

ヴァーチャル・ミュージアムというのは、私自身はポスドクのときにフランスに1年半ぐらいいたのですが、ルーブルのサイトを見ていたら、今でいうヴァーチャル・ミュージアムがありました。美術館の中を一人で歩いて見てまわるというもので、モナリザを一人で見られて、すごいサイトだと思いました。それが非常に心に残っています。そのようなヴァーチャル・ミュージアム、並びにデジタル・アーカイブスの将来の位置付けを、このシンポジウムで考えてみたいと思います。

従来の博物館は、基本的には資料を展示して解説するものでしたが、20年ぐらい前から、資料に関する企画、講演、市民との交流、教育、最近では医療に関する分野まで、地域貢献だけでなくさまざまな企画が開放されて、多様な博物館になってきています。そんな中で、われわれの資料館も後でご覧いただきますが、従来の博物館では、スペースの関係、人が確保できないという状況で展示していない資料が多数あります。

一方、ヴァーチャル・ミュージアムに関しては、デジタルな空間で情報を公開することから、予算のことはありますが、たくさんのものを、たくさんの人に同時に伝えられることが非常に大きな利点であると思います。私自身は、それでも見せられるものをそのまま見るという状況なので限界があるかと思っていたのですが、他の先生の講演では、それがかなり自由に選べるような仕組みがもうできつつあるということなので期待しています。

本シンポジウムは、特別講演では金沢大学附属図書館長の古畑先生、講演では秋田大学の安達先生と早稲田大学の岡室先生にお話しいただきます。それから、これは最初の打ち合わせのときにプログラムに入っていなかったのですが、ICOM（国際博物館会議）の2019年の大会が京都で開催されることが3週間前に決定されたので、国立文化財機構事務局長の栗原様に今日ご報告いただくことになりました。どうぞよろしくお願いします。